

NEWS

クリスマスパーティー 盛大に開催

クリスマスムード一杯 100名参加

～常盤木学園高等学校音楽科による演奏にうっとり～



寄稿：東北日本カナダ協会幹事
佐藤元良(宮城学院女子大) MBA&MIE.



①ビンゴゲームも行われ、サンタさんからプレゼントが渡されました。

東北日本カナダ協会主催によるクリスマスパーティーは12月12日、仙台市の江陽グランドホテルで午後6時から8時、盛大に開催されました。黒田四郎副会長の挨拶、新本恭雄副会長の乾杯の挨拶に続いて、パーティーに入り、シャンペン、ワイン、食事と会話を楽しみました。

クリスマスパーティーを大きく盛り上げたのは、常盤木学園高等学校音楽科の生徒さんによるピアノ、サクソフォン、電子オルガンの合奏でした。さらに、先生のピアノ伴奏と独唱による美しく天使の声を聴くような「ゴスペル」に全員が心洗われる心地となりました。大きな拍手がいつまでも鳴りやみませんでした。松良百合子先生、松良千廣先生に感謝いたします。

まさにクリスマスに相応しい交流会となり、カナダ人参加者もパーティーをエンジョイしておりました。



②あちこちで会話も弾み、和やかな雰囲気。



③パーティーを盛り上げた常盤木学園高等学校音楽科の生徒さん達。

お知らせ

● 日本カナダ経済人会議が仙台で開催されます ●

5月9日(木)、10日(金)の2日間、第25回日本カナダ経済人会議が仙台で行われます。同会議は、日加両国経済界の相互理解と親善を深めることを目的に、1978年(昭和53年)の第1回以来、日本とカナダで毎年交互に開催されていますが、今年初めて、仙台にお迎えすることとなりました。

2日目の地元主催講演会では、当協会副会長のセルコホーム 新本恭雄社長が講師としてお話になる予定です。

日時 5月9日(木)～10日(金)

場所 仙台国際センター

日程 5月9日(木)

全体会議(日加経済関係の今後のあり方、グローバルイシューへの対応)

5月10日(金)

午前 業種別分科会および先端企業・研究機関など視察会

午後 地元主催講演会(予定13:30～仙台国際センターにて)

● 在仙台カナダ名誉領事館が移転します ●

4月30日(火)をもって、在仙台カナダ名誉領事館が電力ビルから移転いたします。新住所は5月7日(火)より下記のとおりとなります。

〒980-8550

仙台市青葉区本町一丁目7-1

新電力ビル21階

【電話・FAX】022-268-5030

なお、同名誉領事館は事務の責任者である名誉副領事の交代に伴い、現在休館中です。カナダ政府から新名誉副領事の任命があり次第、業務を再開いたします。

写真展「赤毛のアンの世界～美しき島 プリンズ・エドワード島」開催 ～大好きな風景に出会う～

「ひとりでも多くの方々に、カナダの素晴らしさを知っていただきたい」との思いを込め、2月11日から18日まで、東北電力グリーンプラザにおいて、若き写真家吉村和敏氏の手による、プリンズ・エドワード島の写真展を開催しました。

今回展示した写真は、プリンズ・エドワード島に魅せられ、十数年にわたって撮影を続けておられる吉村氏の40点の作品です。初日は、吉村氏ご本人が来場し、お客さまとプリンズ・エドワード島を語り合ったり、お買い上げの写真集にサインをしたり、和やかな交流のひとつとなりました。『赤毛のアン』の世界をイメージして暖炉や椅子、キルトなどをしつらえた会場では、期間中たくさんのお客さまに、吉村氏の繊細かつ迫力ある作品を堪能していただきました。

同時開催のチャリティー販売コーナーでは、カナダトレードセンターのご協力のもと、メイプルシロップやクッキー、ジャム、革製品などを販売し、カナダの風土から生まれた名産品を多くの方々にPRすることができました。中でも、収穫期の一番はじめに採れる「一番搾り」のメイプルシロップは、大変希少であることから、多くの来場者の注目を集めていました。

なお、売上の10%の74,978円をアフガン難民支援のため、国連難民高等弁務官事務所に寄付いたしました。



「写真展の感想ノートの中から」

すばらしい風景のひとつです。アニメで見た風景が実写だとこうなんだと、実際に島に行ったことがなくても感動いたしました。

10代の時、アンと出会って以来、アンに勇気と元気をもらってきました。今もアンと友だちのつもり。いつかはアンの家にとずねていってみたいと思いつけて十数年。これらの写真をみているとアンに国にいてみたいような幸せな気分になります。

大好きな風景にたくさん出会え、心がほっとし、すっとしました。今年、実際その場所になって、においや風など感じてみたいと強く思いました。

写真に対する興味が深まりました。

文明社会の代償として人間が失ってしまったものはあまりにも大きい。でも私の故郷に少し似ているこの写真、あれが憧れではなく当たり前になりますように・・・。



写真家・吉村和敏氏

プリンズ・エドワード島に魅了され、島への渡航回数はこの14年間で70回以上を数えます。

最新作品集
好評発売中!

『光くふる郷～アトランティック・カナダの四季～』
(幻冬舎) 定価2,800円+税

カナダ東海岸のニューファンドランド州、プリンズ・エドワード・アイランド州、ノバ・スコシア州、ニュー・ブランズウィック州が作品の舞台になっています。黄色や白の花々がどこまでも続く野原、オレンジ色の光につまれる岬、夕空に映えるクリスマスのイルミネーション...。「カナダ始まりの地アトランティック・カナダ」の輝く風景が心に染みとおる写真集です。

Kaz-Home[吉村和敏氏のホームページ]
<http://www.kaz-yoshimura.com/>

—短歌を通して—

東北日本カナダ協会
副会長 黒田四郎



私は1996年10月5日から12日迄、東北日本カナダ協会の編成にかかるカナダツアーの団長として、36名の方々と一緒にカナダの西半分の地域を訪問した。私のカナダに見たものはとても素晴らしく、その内容と共にカナダの歴史、今後のカナダについて、『東北見聞録2』（八潮社出版）に述べた。ここでは紙数の関係からそれらについて述べる事は省略し、私がカナダツアーにおいて感動して作った短歌について述べてみたい。

私は、私達のカナダツアーが7泊8日であったので、少なくとも7首は作りたいと思い、かつその作品が第三者のクリアーを経る事が必要と思って、河北歌壇に投稿して入選したものを選ぶ事とした。あれから約5年経ち、この程漸く7首となったので、以下に書いてみたい。

一、我等乗る 船より低く 川の面に 虹の立つ見ゆ 水しぶく中

私達は遊覧船によりナイアガラの滝壺に行つた帰りに風も強く、水しぶきが立つ中で、船よりも低い所に小さな虹が立っていた。私の目線より低い所に虹を見たのは、生れて初めてである。



二、小春日和の 氷河の上を ツアー我ら 歩みぬ濃き影 皆伴ないて

カナダでは十月には、"Indian season"があるという。辞書を引けば小春日和とある。その小春日和に恵まれて、私達は白く固まった氷河の上を歩き廻り、歩くと濃き影をお伴にしていた。水でオンザロックを作り廻し飲みました。忘れられない一日であった。

三、機内より 見下ろすカルガリの 街の道 一直線に 天に連なる

飛行機がカルガリに着こうとした時、街の道が一直線に天に連なっていた。その光景は壮大で美しかった。

四、森林の 限界線越え 突き出たる 山皆氷河に 裂かれていたり

森林は凡て黄葉で、その限界線の上は裸の山である。その山々が氷河に浸蝕されて裂かれていた。

五、ロッキーの 山脈氷河に 削られて いずれも縦の 縞を持ちたる

これらの山々は、氷河に削られて縦縞となり、怒れるが如く、悲しむが如き風情にて、天に聳えていた。



私は短歌は、画であり、感動であると思っているが、この7首によって、5年前私と行動を共にされた方々が、その心の奥にしまわれている映像を思い浮べるよすがとして戴ければ幸せである。そしてこれ迄別途カナダにお行きになった方々及び今後カナダに行かれる方々の何かの参考になれば幸甚と思っている。

六、バンクーバーの ホテルより見る街の灯の きらめく果ては 天に連なる

この夜景は、千万ドルの夜景とも思った。

七、氷河の上 語りて歩みし 君逝きぬ カナダツアーより 二年経ぬに

カナダツアーの素晴らしさを語り幸せ一杯であった。その友も永久に旅立ってしまった。